

<細胞像問題>

問題 1 40 歳代、女性。子宮頸癌放射線治療後、子宮腔部擦過、綿棒。

1. NILM (子宮頸管炎)
2. NILM (修復細胞)
3. LSIL (CIN1)
4. HSIL (CIN3)
5. 角化型扁平上皮癌

問題 2 30 歳代、女性。帯下、子宮頸部擦過、サイトピック。

1. NILM (アリアス・ステラ反応)
2. NILM (エクソダス)
3. HSIL (CIN3)
4. AGC (分葉状頸管腺過形成)
5. 通常型内頸部腺癌

問題 3 40 歳代、女性。不正性器出血、子宮腔部擦過、綿棒。

1. NILM (子宮頸管炎)
2. LSIL (CIN1)
3. HSIL (CIN3)
4. 角化型扁平上皮癌
5. 通常型内頸部腺癌

問題 4 30 歳代、女性。不正出血、子宮内膜擦過、エンドサイト。

1. 増殖期内膜
2. 子宮内膜増殖症
3. 胞状奇胎
4. 類内膜癌 G1
5. 漿液性癌

問題 5 40 歳代、女性。検診、子宮内膜擦過、オネストブラシ。

1. 増殖期内膜
2. 分泌期内膜
3. 子宮内膜増殖症
4. 類内膜癌 G1
5. 漿液性癌

問題 6 50 歳代、女性。子宮腫瘤、術中腹水。

1. 反応性中皮
2. 類内膜癌 G1
3. 漿液性癌
4. 明細胞癌
5. 悪性中皮腫

問題 7 40 歳代、女性。帯下、子宮腔部擦過、サイトブラシ。

1. NILM (子宮頸管炎)
2. NILM (ヘルペス感染)
3. HSIL (CIN3)
4. 角化型扁平上皮癌
5. 小細胞癌

問題 8 70 歳代、女性。帯下、子宮腔部擦過、サイトピック。

1. NILM (頸管腺細胞)
2. HSIL (CIN3)
3. AIS (上皮内腺癌)
4. 非角化型扁平上皮癌
5. 胃型粘液性腺癌

問題 9 40 歳代、女性。卵巣腫瘤、捺印。

1. 線維腫
2. 成熟奇形腫
3. セルトリ・ライデッヒ細胞腫
4. 顆粒膜細胞腫
5. 卵黄囊腫瘍

問題 10 70 歳代、女性。不正性器出血、子宮内膜擦過、オネストブラシ。

1. 増殖期内膜
2. 分泌期内膜
3. 子宮内膜増殖症
4. 類内膜癌 G1
5. 癌肉腫

問題 11 60 歳代、男性。胸部異常陰影、肺胞洗淨液。

1. クリプトコッカス肺炎
2. カンジダ肺炎
3. 腺癌
4. 小細胞癌
5. 扁平上皮癌

問題 12 80 歳代、女性。前縦隔腫瘤、捺印。

1. 胸腺腫
2. 定型的カルチノイド
3. 胎児性癌
4. 小細胞癌
5. 扁平上皮癌

問題 13 70 歳代、女性。後縦隔腫瘤。捺印。

1. 類上皮細胞性肉芽腫
2. 胸腺腫
3. 神経鞘腫
4. 非定型的カルチノイド
5. ホジキンリンパ腫

問題 14 60 歳代、男性。胸部腫瘤陰影、縦隔リンパ節、EBUS-TBNA。

1. 腺癌
2. 扁平上皮癌
3. 腺様嚢胞癌
4. 小細胞癌
5. 大細胞癌

問題 15 70 歳代、男性。血尿精査、自然尿。

1. 反応性尿路上皮
2. 膀胱結核
3. リンパ腫
4. 扁平上皮癌
5. 小細胞癌

問題 16 70 歳代、男性。臍帯血移植後、血尿精査、自然尿。

1. 膀胱炎
2. 尿路上皮癌
3. 腺癌
4. 扁平上皮癌
5. リンパ腫

問題 17 80 歳代、女性。胃粘膜下腫瘍、EUS-FNA。

1. 消化管間質腫瘍 (GIST)
2. 神経内分泌腫瘍
3. 腺扁平上皮癌
4. 未分化癌
5. 横紋筋肉腫

問題 18 60 歳代、女性。乳腺腫瘍、穿刺吸引。

1. 乳腺炎
2. 線維腺腫
3. 粘液癌
4. 浸潤性乳管癌
5. 浸潤性微小乳頭癌

問題 19 50 歳代、男性。甲状腺腫瘍、穿刺吸引。

1. 亜急性甲状腺炎
2. 慢性甲状腺炎
3. 濾胞性腫瘍
4. 乳頭癌
5. 髓様癌

問題 20 50 歳代、女性。左耳下部腫脹、耳下部、穿刺吸引。

1. 粘液嚢胞
2. ワルチン腫瘍
3. 多形腺腫
4. 粘表皮癌
5. 腺様嚢胞癌

問題 21 50 歳代、女性。脳腫瘍、捺印。

1. 髄膜反応性肥厚
2. 髄膜腫
3. 神経膠腫（低悪性）
4. 膠芽腫
5. リンパ腫

問題 22 30 歳代、男性。左頸部リンパ節腫脹、リンパ節、捺印。

1. 伝染性単核球症
2. 結核性リンパ節炎
3. ホジキンリンパ腫
4. 非ホジキンリンパ腫
5. 転移性小細胞癌

問題 23 50 歳代、女性。左卵巣腫瘍、腹水。

1. 組織球
2. 反応性中皮細胞
3. 甲状腺性カルチノイド
4. 卵巣卵黄嚢腫瘍
5. 卵巣明細胞癌

問題 24 80 歳代、女性。膝関節腫脹、関節腔、穿刺吸引。

1. 化膿性関節炎
2. 慢性関節リウマチ
3. 色素性絨毛結節性滑膜炎
4. 滑膜肉腫
5. 軟骨肉腫

問題 25 20 歳代、男性。顎骨腫脹、顎骨、穿刺吸引。

1. 歯原性角化嚢胞
2. エナメル上皮腫
3. 骨肉腫
4. 転移性骨腫瘍（腺癌）
5. 原発性骨内癌、NOS（扁平上皮癌）

<筆記問題>

問題 26 日本臨床細胞学会認定施設に対する精度管理ガイドラインについて正しいのはどれか。

1. 報告書の保存期間は3年間を基本とする。
2. 細胞診専門医は常勤であることが必須である。
3. 細胞検査士の1日の検鏡枚数は120枚を上限とする。
4. 陽性例・疑陽性例判定報告は、細胞診専門医・指導医が必ずチェックする。
5. 陰性標本の5%以上において細胞診でのダブルチェックを実施するように努める。

問題 27 検診について正しいのはどれか。

1. 対策型検診は全額自己負担である。
2. 任意型検診は公的資金を使用して行う。
3. 対策型検診は個人の死亡リスクを下げる目的で行う。
4. 任意型検診は公共的な医療サービスのひとつである。
5. 対策型検診では組織型検診(Organized screening)を行うことが理想である。

問題 28 細胞診検査について正しいのはどれか。

1. 壊死があれば悪性と考えてよい。
2. 通常組織標本に比して標本作成時間が長い。
3. 良性腫瘍細胞は核の大小不同が目立つ。
4. スクリーニングは2倍の対物レンズを用いる。
5. 病理組織標本と比べて組織構築が読みにくい。

問題 29 ギムザ染色について正しいのはどれか。

1. メタクロマジーがみられる。
2. 90%エタノールで固定する。
3. 血球系細胞の観察には向いていない。
4. 細胞の剥離がパパニコロウ染色に比べ多い。
5. 細胞の大きさはパパニコロウ染色標本より小さい。

問題 30 液状化検体細胞診法について誤っているのはどれか。

1. 遺伝子検索に不向きである。
2. 免疫染色の施行が容易である。
3. 乾燥に伴う不適正標本を減少させる。
4. 均一に塗抹された標本が作製できる。
5. 固定液に細胞を浮遊させるため細胞形態に変化が生じる。

問題 31 遺伝性腫瘍の組み合わせで誤っているのはどれか。

- | | | |
|----------------------|---|-------------------------|
| 1. Lynch 症候群 | — | 子宮体癌 |
| 2. Cowden 症候群 | — | 乳癌 |
| 3. 家族性大腸腺腫症 | — | 常染色体劣性遺伝 |
| 4. Peutz-Jeghers 症候群 | — | <i>STK11</i> 遺伝子機能喪失型変異 |
| 5. 若年性ポリポース症候群 | — | 過誤腫性ポリープ |

問題 32 子宮頸部細胞診について正しい組み合わせはどれか。

1. 修復細胞 — 柵状配列
2. 妊娠性変化 — 舟状細胞
3. 増殖期初期 — エクソダス
4. 萎縮性炎症 — 表層細胞の増加
5. 卵管上皮化生 — 核小体の肥大

問題 33 妊娠中の子宮頸部細胞診について誤っているのはどれか

1. 中層細胞優位の出現パターンになる。
2. 扁平円柱上皮境界 (SCJ) が内方に移動する。
3. 検体採取には侵襲の少ない綿棒が容認される。
4. 細胞診異常の取り扱いは、非妊娠時と同様である。
5. 浸潤癌を疑う所見がある場合には、診断的円錐切除がおこなわれる。

問題 34 子宮内膜細胞診について正しいのはどれか。

1. 閉経期では核異型が目立つ。
2. 判定はベセスダシステムに準拠する。
3. 分泌期内膜では豊富な細胞質を有する。
4. 増殖期の核クロマチンは不均等分布を示す。
5. 類内膜癌 G1 は G3 に比べ細胞間結合性が弱い。

問題 35 卵巣腫瘍の細胞像について正しい組み合わせはどれか。

- | | | |
|-------------------|---|---------------------|
| 1. 卵巣甲状腺腫 | — | Hyaline globule |
| 2. 顆粒膜細胞腫 | — | Schiller–Duval body |
| 3. 未分化胚細胞腫 | — | Two cell pattern |
| 4. 成人型顆粒膜細胞腫 | — | Hobnail cell |
| 5. セルトリ・ライディッヒ細胞腫 | — | Psammoma body |

問題 36 肺病変と細胞所見の組み合わせについて誤っているのはどれか。

1. 反応性肺胞上皮細胞 - 核小体腫大
2. 腺癌 - 立体的配列
3. 扁平上皮癌 - 細胞相互封入
4. 小細胞癌 - 核縁不明瞭
5. 大細胞神経内分泌癌 - 裸核状

問題 37 肺扁平上皮癌の免疫染色において陽性率が高いマーカーはどれか。

1. p40
2. TTF-1
3. Napsin-A
4. NCAM (CD56)
5. Cytokeratin 20

問題 38 肺腺癌の予後不良因子として最も考えられるものはどれか。

1. リンパ球浸潤
2. 肺胞置換増殖
3. 弾性線維増生
4. 壊死巣の形成
5. 微小乳頭状パターン

問題 39 尿細胞診について正しいのはどれか。

1. 尿細胞診では淡明細胞型腎細胞癌の感度は高い。
2. 膀胱角化型扁平上皮癌は慢性炎症の持続により生じる。
3. 浸潤性尿路上皮癌と転移性肺腺癌の鑑別は容易である。
4. 反応性尿路上皮細胞と低異型度尿路上皮癌の鑑別は容易である。
5. 自然尿では低異型度尿路上皮癌は結合性のよく保たれた集塊でみられる。

問題 40 尿細胞診について誤っているのはどれか。

1. 早朝尿では細胞変性を伴わない。
2. 膀胱結石症では尿路上皮のクラスターがみられる。
3. 自然尿に比べてカテーテル尿では、細胞成分に富む。
4. 全身性シクロフォスファミド治療後には、核腫大細胞を認める。
5. 膀胱内マイトマイシン C 注入療法後には、核腫大細胞を認める。

問題 41 正しい組み合わせはどれか。

1. 肝細胞癌－粘液産生
2. 胃リンパ球浸潤癌－EBV
3. 胃 MALT リンパ腫－T 細胞
4. Barrett 食道癌－扁平上皮癌
5. 膵腺房細胞癌－神経内分泌顆粒

問題 42 乳腺腫瘍で異型性を伴う紡錘型細胞が出現するのはどれか。

1. 粘液癌
2. 分泌癌
3. 悪性葉状腫瘍
4. 浸潤性小葉癌
5. 浸潤性微小乳頭癌

問題 43 甲状腺病変の細胞像として誤っているのはどれか。

1. 未分化癌では壊死性背景を伴う。
2. 髄様癌ではアミロイド物質がみられる。
3. 橋本病では背景にリンパ球は目立たない。
4. 亜急性甲状腺炎では多核巨細胞がみられる。
5. 硝子化索状腫瘍では核内細胞質封入体がみられる。

問題 44 体腔液細胞診について正しいのはどれか。

1. 中皮腫細胞は長い微絨毛を有しない。
2. 原発性腹膜癌は低異型度漿液性癌が殆どを占める。
3. 肺腺癌細胞に対する EGFR の遺伝子検査が不可能である。
4. 腺癌細胞と反応性中皮細胞の鑑別に MOC31 の免疫染色が有用である。
5. 中皮腫細胞における細胞間の”窓 window”の形成は診断的な価値がない。

問題 45 腫瘍と形態的特徴の正しい組合せはどれか。

1. 粘表皮癌 － 形質細胞様細胞
2. 筋上皮癌 － 粒状細胞質
3. 腺房細胞癌 － 粘液細胞
4. 腺様嚢胞癌 － 粘液球
5. 唾液腺導管癌 － リンパ球性背景

選択問題 A

問題 46 卵巣の高異型度漿液性癌について正しいのはどれか。

1. 半数は I 期で発見される。
2. 卵巣がんでは稀な組織型である。
3. *TP53* 変異がみられるのは約 20%程度である。
4. 発生において、卵管上皮起源説が提唱されている。
5. *BRCA1/2* 遺伝子の病的変異が 90%以上に認められる。

問題 47 子宮頸部腺癌について正しいのはどれか。

1. 漿液性癌が最も多くみられる。
2. 上皮内腺癌の背景は壊死性である。
3. 高度扁平上皮内病変と共存することはない。
4. 胃型腺癌は通常型腺癌より予後良好である。
5. 通常型はハイリスク HPV が発生に関与する。

問題 48 子宮内膜腺間質破綻 (Endometrial glandular and stromal breakdown) の所見として誤っているのはどれか。

1. 壊死性背景
2. 間質細胞の凝集
3. フィブリンの析出
4. 好酸性化生様変化
5. 増殖期様腺管の断片化

問題 49 卵巣の捺印細胞診で標本作製が最も困難な腫瘍はどれか。

1. 線維腫
2. 漿液性癌
3. 類内膜癌
4. 卵黄嚢腫瘍
5. 顆粒膜細胞腫

問題 50 子宮平滑筋肉腫の細胞像として正しいのはどれか。

1. 核形は均一である。
2. 核内封入体を認める。
3. 細胞境界は明瞭である。
4. 細胞集塊は結合性に乏しい。
5. クロマチンは均一に分布している。

選択問題 B

問題 51 超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) について誤っているのはどれか。

1. 膵内分泌腫瘍の診断に有用である。
2. 膵癌と腫瘤形成性膵炎の鑑別に有用である。
3. 経皮的穿刺と比較して病変から採取しやすい。
4. 充実性病変よりも嚢胞性病変の診断に適している。
5. セルブロック法による免疫組織化学染色は補助的診断に有用である。

問題 52 乳腺の浸潤性小葉癌の細胞像として誤っているのはどれか。

1. 腫瘍細胞の結合性が低下する。
2. 腫瘍細胞が数珠状配列を呈する。
3. 背景に著明なリンパ球浸潤を伴う。
4. 腫瘍細胞の核の大小不同は目立たない。
5. 腫瘍細胞の核は繊細なクロマチンを特徴とする。

問題 53 小児に好発する脳腫瘍はどれか。

1. 髄膜腫
2. 下垂体腺腫
3. 頭蓋咽頭腫
4. 髄芽腫
5. 膠芽腫

問題 54 リンパ節病変と細胞所見の組み合わせについて誤っているのはどれか。

1. 反応性濾胞過形成 — tingible body macrophage
2. 壊死性リンパ節炎 — Charcot-Leyden crystal
3. 結核性リンパ節炎 — Langhans giant cell
4. ホジキンリンパ腫 — Reed-Sternberg cell
5. びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫 — lymphograndular body

問題 55 骨・軟部腫瘍細胞診について誤っているのはどれか。

1. 粘液性脂肪肉腫は血管分布に乏しい。
2. 骨肉腫では腫瘍性の骨芽細胞を認める。
3. 腱鞘巨細胞腫では破骨型巨細胞が出現する。
4. 神経鞘腫では基質内に腫瘍細胞が接着性に分布する。
5. 結節性筋膜炎では異型の乏しい紡錘形細胞が、疎に分布する。

選択問題 C

問題 56 パパニコロウ染色で、扁平上皮細胞の過角化を反映する色素はどれか。

1. エオシン Y
2. オレンジ G
3. ヘマトキシリン
4. ライトグリーン SF
5. ビスマルクブラウン

問題 57 咀嚼粘膜に分類されるのはどれか。

1. 頬粘膜
2. 口唇粘膜
3. 口底粘膜
4. 硬口蓋粘膜
5. 軟口蓋粘膜

問題 58 口腔癌の特徴はどれか。

1. 好発部位は小唾液腺である。
2. 多くは HPV 関連発癌による。
3. 歯肉発生例では前駆病変は伴わない。
4. 組織型は扁平上皮癌が大多数を占める。
5. 我が国では全頭頸部癌の約 1 %を占める。

問題 59 口腔粘膜疾患細胞診の判定区分で検体不適正 (inadequate) に該当するのはどれか。

1. 深層細胞が存在しない。
2. 標本全体が乾燥している。
3. 良悪性の判定が困難である。
4. 正常細胞のみが採取されている。
5. 角化細胞のみが採取されている。

問題 60 穿刺吸引細胞診が推定診断に有用な病変はどれか。

1. 上皮内癌
2. 多形腺腫
3. 単純疱疹
4. 尋常性天疱瘡
5. 口腔カンジダ症

<検鏡問題>

総合科

標本番号 1

60歳代・女性 不正性器出血 子宮腔頸部 ブラシ

問題1 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題2 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM(子宮頸管炎)
2. LSIL/CIN1
3. HSIL/CIN3
4. 角化型扁平上皮癌
5. 通常型内頸部腺癌

標本番号 2

40歳代・女性 検診 子宮腔頸部 サイトピック

問題3 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題4 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（修復細胞）
2. NILM（カンジダ感染）
3. LSIL/CIN1
4. HSIL/CIN3
5. 角化型扁平上皮癌

標本番号 3

70歳代・女性 腹部膨満感 腹水穿刺

問題5 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題6 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 反応性中皮細胞
2. 腹膜子宮内膜症
3. 腹膜偽粘液腫
4. 高異型度漿液性癌
5. 顆粒膜細胞腫

標本番号 4

40 歳代・女性 不正性器出血 子宮内膜 エンドサイト

問題 7 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 8 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 増殖期内膜
2. 分泌期内膜
3. 子宮内膜増殖症
4. 類内膜癌 G1
5. 明細胞癌

標本番号 5

30 歳代・女性 帯下 子宮腔頸部 サイトピック

問題 9 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 10 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（萎縮性膣炎）
2. LSIL/CIN1
3. HSIL/CIN3
4. 角化型扁平上皮癌
5. 通常型内頸部腺癌

標本番号 6

20 歳代・女性 検診 子宮腔頸部 サイトピック

問題 11 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 12 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（子宮頸管炎）
2. NILM（トリコモナス膣炎）
3. LSIL/CIN1
4. HSIL/CIN3
5. 角化型扁平上皮癌

標本番号 7

60 歳代・女性 閉経後 不正性器出血 子宮内膜 ブラシ

問題 1 3 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 1 4 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 増殖期内膜
2. 分泌期内膜
3. 類内膜癌 G1
4. 類内膜癌 G3
5. 子宮内膜間質肉腫

標本番号 8

40 歳代・女性 不正性器出血 子宮腔頸部 綿棒

問題 1 5 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 1 6 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（子宮頸管炎）
2. LSIL/CIN1
3. HSIL/CIN3
4. 非角化型扁平上皮癌
5. 胃型粘液性癌

標本番号 9

60 歳代・女性 不正性器出血 子宮内膜 エンドサイト

問題 1 7 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 1 8 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 分泌期内膜
2. 萎縮性内膜
3. 子宮内膜増殖症
4. 類内膜癌 G1
5. 漿液性癌

標本番号 10

60 歳代・女性 帯下 子宮腔頸部 サイトピック

問題 19 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 20 推定診断として最も適切なものはどれか

1. NILM（萎縮性膣炎）
2. LSIL/CIN1
3. HSIL/CIN3
4. 非角化型扁平上皮癌
5. 通常型内頸部腺癌

標本番号 11

80 歳代・男性 左肺上葉腫瘤影 喀痰吸引

問題 21 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 22 推定診断として最も適切なものはどれか

1. ウイルス性肺炎
2. 硬化性肺胞上皮腫
3. 扁平上皮癌
4. 小細胞癌
5. びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫

標本番号 12

40 歳代・男性 胸部異常陰影 肺腫瘤捺印

問題 23 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 24 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 硬化性肺胞上皮腫
2. カルチノイド腫瘍
3. 扁平上皮癌
4. 腺様嚢胞癌
5. 大細胞神経内分泌癌

標本番号 13

60 歳代・男性 胸部異常陰影 肺腫瘍捺印

問題 2 5 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 2 6 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 硬化性肺胞上皮腫
2. 過誤腫
3. 扁平上皮癌
4. 粘液性腺癌
5. 腺様嚢胞癌

標本番号 14

50 歳代・男性 血尿精査 自然尿

問題 2 7 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 2 8 推定診断として最も適切なものはどれか

1. ウイルス感染細胞
2. 再生異型上皮細胞
3. 腺癌
4. 小細胞癌
5. 尿路上皮癌

標本番号 15

50 歳代・男性 閉塞性黄疸 胆汁

問題 2 9 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 3 0 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 過形成性ポリープ
2. 再生異型上皮細胞
3. 腺癌
4. 小細胞癌
5. 扁平上皮癌

標本番号 16

30 歳代・女性 乳腺腫瘍 穿刺吸引

問題 3 1 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 3 2 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 肉芽腫性乳腺炎
2. 線維腺腫
3. 粘液癌
4. 浸潤性小葉癌
5. 浸潤性乳管癌

標本番号 17

70 歳代・女性 甲状腺腫瘍 穿刺吸引

問題 3 3 細胞所見として適切なのはどれか

1. 核内封入体
2. 異型リンパ球
3. アミロイド沈着

問題 3 4 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 亜急性甲状腺炎
2. 慢性甲状腺炎
3. 濾胞性腫瘍
4. 乳頭癌
5. 髄様癌

標本番号 18

4 歳・男性 小脳腫瘍 腫瘍捺印

問題 3 5 細胞所見としてよく認められるのはどれか

1. 壊死性背景
2. 異常核分裂像
3. 細長い突起

問題 3 6 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 毛様細胞性星細胞腫
2. 上衣腫
3. 髄芽腫
4. リンパ腫
5. 横紋筋肉腫

標本番号 19

10 歳代・男性 腋窩リンパ節腫大 リンパ節捺印

問題 3 7 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 3 8 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 皮膚リンパ節炎
2. 壊死性組織球性リンパ節炎(菊池病)
3. びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫
4. 腺癌の転移
5. 扁平上皮癌の転移

標本番号 20

80 歳代・女性 易疲労性、心嚢液貯留 心嚢液穿刺吸引

問題 3 9 細胞診判定はどれか

1. 良性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 4 0 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 反応性中皮
2. 腺癌
3. 扁平上皮癌
4. 悪性中皮腫
5. リンパ腫

歯科

標本番号 1

50 歳代・男性 歯肉びらん ブラシ擦過

問題 1 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 2 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（歯肉炎）
2. NILM（単純疱疹）
3. 腺様嚢胞癌
4. 転移性腫瘍（腺癌）
5. 転移性腫瘍（扁平上皮癌）

標本番号 2

70 歳代・女性 歯肉の疼痛 ブラシ擦過

問題 3 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 4 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（褥瘡性潰瘍）
2. NILM（カンジダ感染）
3. OLSIL（軽度異形成）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 3

80 歳代・男性 歯肉腫脹 ブラシ擦過

問題 5 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 6 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（歯周炎）
2. NILM（顎放線菌症）
3. 神経鞘腫
4. 形質細胞腫
5. 扁平上皮癌

標本番号 4

40 歳代・女性 掻痒感を伴う頬粘膜びらん ブラシ擦過

問題 7 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 8 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（カンジダ感染）
2. NILM（扁平苔癬/炎症）
3. OLSIL（軽度異形成）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 5

70 歳代・女性 歯肉の疼痛 ブラシ擦過

問題 9 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 10 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（過角化症）
2. NILM（尋常天疱瘡）
3. NILM（ヘルペス感染）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 6

20 歳代・女性 舌下粘膜腫脹 穿刺吸引

問題 11 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 12 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 膿瘍
2. 粘液嚢胞
3. 類皮嚢胞
4. リンパ管腫
5. 粘表皮癌

標本番号 7

70 歳代・女性 顎骨腫脹 穿刺吸引

問題 13 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 14 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 歯根嚢胞
2. 顎放線菌症
3. 歯原性角化嚢胞
4. エナメル上皮腫
5. 原発性骨内癌,NOS（扁平上皮癌）

標本番号 8

60 歳代・女性 頬粘膜白斑 ブラシ擦過

問題 1 5 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 1 6 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（過角化症）
2. NILM（カンジダ感染）
3. OLSIL（軽度異形成）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 9

50 歳代・女性 耳下腺部腫脹 穿刺吸引

問題 1 7 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 1 8 推定診断として最も適切なのはどれか

1. 多形腺腫
2. ワルチン腫瘍
3. 粘表皮癌
4. 腺様嚢胞癌
5. 腺房細胞癌

標本番号 10

60 歳代・男性 舌縁白斑 ブラシ擦過

問題 1 9 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 2 0 推定診断として最も適切なのはどれか

1. NILM（過角化症）
2. NILM（カンジダ感染）
3. OLSIL（軽度異形成）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 11

70 歳代・男性 舌縁部白斑 ブラシ擦過

問題 2 1 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 2 2 推定診断として最も適切なものはどれか

1. NILM（過角化症）
2. NILM（カンジダ感染）
3. OLSIL（軽度異形成）
4. OHSIL（高度異形成）
5. SCC（扁平上皮癌）

標本番号 12

60 歳代・男性 口蓋部腫脹 穿刺吸引

問題 2 3 細胞診判定はどれか

1. 陰性（正常、良性、感染）
2. 要精査（悪性、境界悪性、前駆病変）

問題 2 4 推定診断として最も適切なものはどれか

1. 多形腺腫
2. ワルチン腫瘍
3. 粘表皮癌
4. 腺様嚢胞癌
5. 腺房細胞癌